

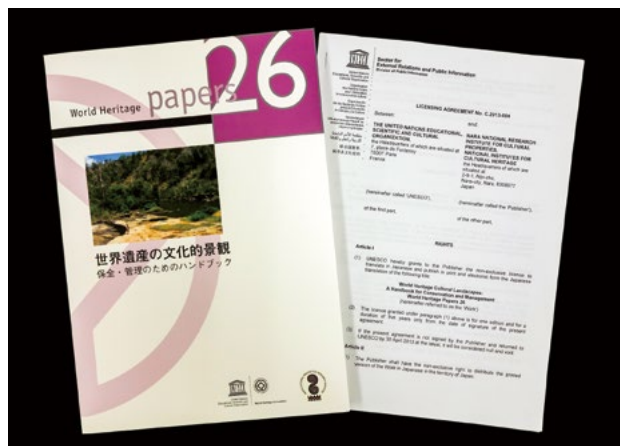
『世界遺産の文化的景観』 日本語版の刊行

景観研究室では、世界遺産をはじめとした諸外国の文化的景観の保護・マネジメントに関して、日本との比較研究を2011年度より実施しています。

その一環として、ユネスコ(国連教育科学文化機関)世界遺産センターが2009年に英語版を出版したWorld Heritage Papers第26号の翻訳等をおこない、今回、『世界遺産の文化的景観 保全・管理のためのハンドブック』として刊行しました。これは、奈良文化財研究所とユネスコの翻訳出版権契約にもとづくものです。日本語版では、英語版からの翻訳に加え、キショー・ラオ世界遺産センター長から「日本語版のための序文」をご寄稿いただいたほか、景観研究室による解説文等も新たに加えました。

本書は、世界遺産に登録された文化的景観の保全・管理について、実践的な観点から豊富な事例研究も交えてまとめられたもので、現場で取組を進める多様な立場の人に対して役立つことを目指したものとなっています。ここで示された保全・管理の考え方やプロセスは、世界遺産の文化的景観に限らず、現代の生活と密接に結びつき、今も生きている文化遺産(リビング・ヘリテージ)全般についてあてはまる内容であり、極めて示唆に富んでいます。

文化的景観は比較的新しい文化財の種類であることから、景観研究室では、今後も諸外国の動向も注視しながら、価値評価や保護手法に関する調査研究を進めていきます。なお、本書電子版は奈文研学術情報リポジトリおよびユネスコ世界遺産センターウェブサイトでも公開していますので、ぜひご覧ください。(文化遺産部 菊地 淑人)



ユネスコと締結した契約書と今回完成した日本語版

文化財等防災ネットワーク研修

奈良文化財研究所が所属する独立行政法人国立文化財機構は、国内における文化財の防災体制を確立することを目的として、2014年7月に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置しました。阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめとする大災害により被災した文化財のレスキュー、そして、これらの取組から得られた教訓を基に、多様な分野、諸機関とのネットワークや、文化財の危機管理体制を構築するための事業を展開しています。

奈文研はこの事業の一環として、2015年3月3日からの3日間にわたって文化財等防災ネットワーク研修を開催し、地方公共団体の教育委員会や埋蔵文化財センター、および博物館や資料館等から10名の方に受講いただきました。研修では、東日本大震災での被災文化財等のレスキュー活動事例を中心とした文化財防災の取組に関する講義、さらには水損資料のカビの扱いや具体的なクリーニング方法に関する実習をおこないます。文化財の救援活動等についての実践的な知識と技術の習得に加え、文化財防災ネットワーク設立の背景や目的、全体像についても知識を深める機会となりました。

文化財の防災を考えると、「ネットワーク」は重要なキーワードです。このような研修を通して受講者同士のネットワークが広がり、また研修で得られた知識や技術を地域のネットワークへも広げていっていただけるよう、今後も同様の研修を継続していきたいと考えています。

(埋蔵文化財センター 中島 志保)



クリーニング実習の様子